

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2018（2019 年更新版）に準拠して作成

散瞳・調節麻痺点眼剤
アトロピン硫酸塩水和物点眼液
劇薬 **日点アトロピン点眼液1%**
Nitten ATROPINE Ophthalmic Solution

剤形	点眼剤
製剤の規制区分	劇薬
規格・含量	1mL 中 アトロピン硫酸塩水和物 10mg
一般名	和名：アトロピン硫酸塩水和物（JAN） 洋名：Atropine Sulfate Hydrate（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・販売開始年月日	製造販売承認年月日：1968 年 7 月 19 日 薬価基準収載年月日：1976 年 9 月 1 日 販売開始年月日：1976 年 9 月
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：ロートニッテン株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	ロートニッテン株式会社 医薬情報問合せ窓口 TEL 0120(691)910 FAX 052(823)9115 医療関係者向けホームページ https://www.rohto-nitten.co.jp/

本 IF は 2022 年 4 月改訂の電子添文の記載に基づき改訂しました。
最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

医薬品インタビューフォーム利用の手引きの概要

－日本病院薬剤師会－

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、IF と略す）が誕生した。

1988 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第 2 小委員会が IF の位置付け、IF 記載様式、IF 記載要領を策定し、その後 1998 年に日病薬学術第 3 小委員会が、2008 年、2013 年に日病薬医薬情報委員会が IF 記載要領の改訂を行ってきた。

IF 記載要領 2008 以降、IF は PDF 等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加した IF が速やかに提供されることとなった。最新版の IF は、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ (<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>) にて公開されている。日病薬では、2009 年より新医薬品の IF の情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019 年の添付文書記載要領の変更に合わせて、IF 記載要領 2018 が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

IF に記載する項目配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

IF の提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

3. IF の利用にあたって

電子媒体の IF は、PMDA の医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って IF を作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を PMDA の医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V.5. 臨床成績」や「X II. 参考資料」、「X III. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。IF は日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の広告規則や販売情報提供活動ガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR 等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らが IF の内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、IF を活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

(2020 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯 1
2. 製品の治療学的特性 1
3. 製品の製剤学的特性 1
4. 適正使用に関して周知すべき特性 ... 1
5. 承認条件
及び流通・使用上の制限事項 1
6. RMPの概要 1

II. 名称に関する項目

1. 販売名 2
2. 一般名 2
3. 構造式又は示性式 2
4. 分子式及び分子量 2
5. 化学名（命名法）又は本質 2
6. 慣用名、別名、略号、
記号番号 2

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質 3
2. 有効成分の各種条件下
における安定性 3
3. 有効成分の確認試験法、定量法 3

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形 4
2. 製剤の組成 4
3. 添付溶解液の組成及び容量 4
4. 力価 4
5. 混入する可能性のある
夾雑物 4
6. 製剤の各種条件下における
安定性 5
7. 調製法及び溶解後の安定性 5
8. 他剤との配合変化
（物理化学的変化） 5
9. 溶出性 5
10. 容器・包装 5
11. 別途提供される資材類 5
12. その他 5

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果 6
2. 効能又は効果に関連する注意 6
3. 用法及び用量 6
4. 用法及び用量に関連する注意 6
5. 臨床成績 6

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物
又は化合物群 7
2. 薬理作用 7

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移 8
2. 薬物速度論的パラメータ 8
3. 母集団（ポピュレーション）解析 ... 8
4. 吸収 8
5. 分布 8
6. 代謝 9
7. 排泄 9
8. トランスポーターに関する
情報 9
9. 透析等による除去率 9
10. 特定の背景を有する患者 9
11. その他 9

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由 10
2. 禁忌内容とその理由 10
3. 効能又は効果に関連する
注意とその理由 10
4. 用法及び用量に関連する
注意とその理由 10
5. 重要な基本的注意とその理由 10
6. 特定の背景を有する患者に関する
注意 10
7. 相互作用 11
8. 副作用 11
9. 臨床検査結果に及ぼす影響 12
10. 過量投与 12
11. 適用上の注意 12
12. その他の注意 12

IX. 非臨床試験に関する項目

- 1. 薬理試験 13
- 2. 毒性試験 13

X. 管理的事項に関する項目

- 1. 規制区分 14
- 2. 有効期間 14
- 3. 包装状態での貯法 14
- 4. 取扱い上の注意 14
- 5. 患者向け資材 14
- 6. 同一成分・同効薬 14
- 7. 国際誕生年月日 14
- 8. 製造販売承認年月日及び
承認番号、薬価基準収載年月日、
販売開始年月日 14
- 9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更
追加等の年月日及びその内容 14

- 10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及
びその内容 14
- 11. 再審査期間 15
- 12. 投薬期間制限に関する情報 15
- 13. 各種コード 15
- 14. 保険給付上の注意 15

X I. 文献

- 1. 引用文献 16
- 2. その他の参考文献 16

X II. 参考資料

- 1. 主な外国での発売状況 17
- 2. 海外における臨床支援情報 17

X III. 備考

- 1. 調剤・服薬支援に際して 臨床判断を
行うに あたっての参考情報 18
- 2. その他の関連資料 18

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アトロピンは副交感神経のムスカリン受容体において、アセチルコリンと競合的に拮抗し、副交感神経の伝達を遮断させる。
点眼すると、虹彩の瞳孔括約筋を弛緩させ散瞳を、毛様体筋を弛緩させ調節麻痺を引き起こす。
一般にアトロピン点眼液は他の散瞳薬に比べ、効果が強力で、かつ作用時間が長いと言われている。
日点アトロピン点眼液 1%は規格及び試験方法を設定し、1968 年 7 月に承認を取得、1976 年 9 月に販売開始した。

2. 製品の治療学的特性

(1) 有効性

散瞳・調節麻痺点眼剤であり、虹彩の瞳孔括約筋を弛緩させ散瞳を、毛様体筋を弛緩させ調節麻痺を引き起こす。

(2) 安全性

アトロピン硫酸塩点眼液の副作用として、アレルギー性結膜炎、眼瞼結膜炎、続発性緑内障、眼圧上昇、血圧上昇、心悸亢進、幻覚、痙攣、興奮、悪心・嘔吐、口渇、便秘、顔面潮紅、頭痛、発熱（頻度不明）が報告されている。

3. 製品の製剤学的特性

なし

4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資料、 最適使用推進ガイドライン等	有無	タイトル、参照先
RMP	無	—
追加のリスク最小化活動として作成されている資料	無	—
最適使用推進ガイドライン	無	—
保険適用上の留意事項通知	無	—

5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

(1) 承認条件

該当しない

(2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

6. RMPの概要

該当資料なし

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

日点アトロピン点眼液 1%

(2) 洋名

Nitten ATROPINE Ophthalmic Solution

(3) 名称の由来

特になし

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

アトロピン硫酸塩水和物 (JAN)

(2) 洋名 (命名法)

Atropine Sulfate Hydrate (JAN)

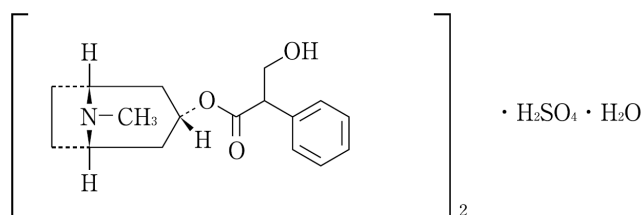
Atropine Sulfate (USAN)

(3) ステム

アトロピン誘導体: - trop

3. 構造式又は示性式

構造式



4. 分子式及び分子量

分子式: $(\text{C}_{17}\text{H}_{23}\text{NO}_3)_2 \cdot \text{H}_2\text{SO}_4 \cdot \text{H}_2\text{O}$

分子量: 694.83

5. 化学名 (命名法) 又は本質

(1*R*, 3*r*, 5*S*)-8-Methyl-8-azabicyclo[3.2.1]oct-3-yl[(2*RS*)-3-hydroxy-2-phenyl]propanoate hemisulfate hemihydrate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名: 硫酸アトロピン、アトロピン硫酸塩

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状¹⁾

無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはない。

(2) 溶解性¹⁾

溶 媒	日本薬局方の表現
水	極めて溶けやすい
酢酸(100)	極めて溶けやすい
エタノール(95)	溶けやすい
ジエチルエーテル	ほとんど溶けない

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点¹⁾

融点：188～194℃（分解）。乾燥後、180℃の溶液中に挿入し、1 分間に約 3℃上昇するように加熱を続ける。

(5) 酸塩基解離定数²⁾

pKa=9.8

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

光によって変化する。¹⁾

3. 有効成分の確認試験法、定量法

(1) 確認試験法

日局「アトロピン硫酸塩水和物」による

(2) 定量法

日局「アトロピン硫酸塩水和物」による

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

- (1) 剤形の区別
水性点眼剤
- (2) 製剤の外観及び性状
無色澄明、無菌水性点眼剤
- (3) 識別コード
該当しない
- (4) 製剤の物性
pH : 5.0 ~ 6.5
浸透圧比：約 1
- (5) その他
無菌製剤である。

2. 製剤の組成

- (1) 有効成分（活性成分）の含量及び添加剤
有効成分の含量：1mL 中 アトロピン硫酸塩水和物を 10mg 含有
添加剤：亜硫酸水素ナトリウム、ベンザルコニウム塩化物、
リン酸二水素ナトリウム水和物、
無水リン酸一水素ナトリウム、等張化剤
- (2) 電解質等の濃度
該当しない
- (3) 熱量
該当しない

3. 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

4. 力価

該当しない

5. 混入する可能性のある 夾雑物

該当資料なし

6. 製剤の各種条件下における
安定性

加速試験³⁾

試験条件：5mL プラスチック製点眼容器、40℃、75%RH、
3 ロット、n=3 で試験を実施

	開始時	50 日後	100 日後	150 日後	200 日後
性状 (無色澄明の液)	無色澄明 の液	無色澄明 の液	無色澄明 の液	無色澄明 の液	無色澄明 の液
pH (5.0～6.5)	6.1～6.2	6.0	5.7～5.8	5.6	5.4～5.5
含量(%)※	100.4～ 101.1	98.7～ 99.6	97.6～ 98.6	96.9～ 97.8	96.3～ 97.1

※表示量に対する割合

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化
(物理化学的变化)

該当資料なし

9. 溶出性

該当しない

10. 容器・包装

(1) 注意が必要な容器・包装、外観が特殊な容器・包装に
関する情報

該当しない

(2) 包装

プラスチック点眼容器 5mL×10 本

(3) 予備容量

該当しない

(4) 容器の材質

	容器	中栓	キャップ
プラスチック容器	ポリエチレン	ポリエチレン	ポリエチレン

11. 別途提供される資材類

投薬袋

12. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺
2. 効能又は効果に関連する注意	設定されていない
3. 用法及び用量	(1) 用法及び用量の解説 通常、1日1～3回、1回1～2滴宛点眼する。 (2) 用法及び用量の設定経緯・根拠 該当資料なし
4. 用法及び用量に関連する注意	設定されていない
5. 臨床成績	(1) 臨床データパッケージ 該当しない (2) 臨床薬理試験 該当資料なし (3) 用量反応探索試験 該当資料なし (4) 検証的試験 1) 有効性検証試験 該当資料なし 2) 安全性試験 該当資料なし (5) 患者・病態別試験 該当資料なし (6) 治療的使用 1) 使用成績調査（一般使用成績調査，特定使用成績調査，使用成績比較調査）、製造販売後データベース調査、製造販売後臨床試験の内容 該当資料なし 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要 該当しない (7) その他 該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物 又は化合物群

スコポラミン臭化水素酸塩水和物、ブチルスコポラミン臭化物、
ブトロピウム臭化物など

注意：関連のある化合物の効能・効果等は最新の添付文書を参照すること。

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

作用部位：瞳孔括約筋、毛様体筋

作用機序⁴⁾：アトロピンはコリン作動性刺激に対する虹彩括約筋
及び毛様体筋の反応を遮断する。

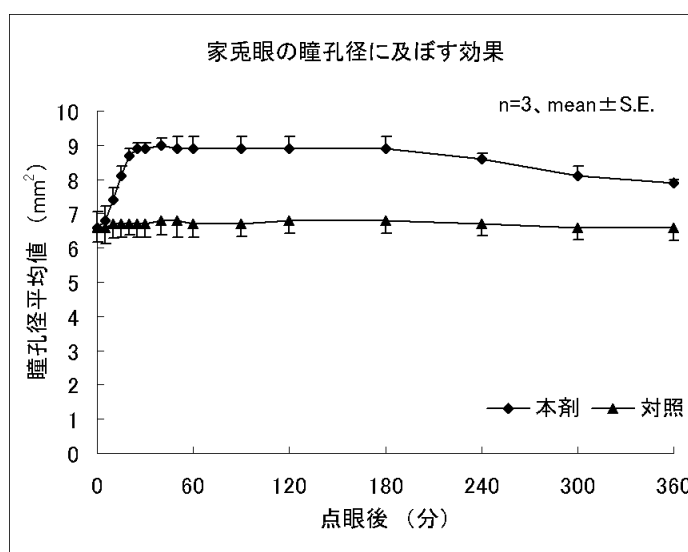
(2) 薬効を裏付ける試験成績

〔効力試験（家兎における散瞳効果）〕⁵⁾

本剤を家兎の右眼に1回点眼し、左眼は無処置とした。点眼前
及び点眼後、所定時間毎に瞳孔径を測定した。

各群の瞳孔径の平均値をグラフに示した。

本剤は対照（無処置）と比較し有意の明らかな散瞳効果を示した。



(3) 作用発現時間・持続時間

1. 散瞳作用^{6,7)}

散瞳は点眼後数分から始まり、約 40 分で最大となる。作用
は 7～10 日間持続する。

2. 調節麻痺作用^{4,7)}

調節麻痺は散瞳にやや遅れて発現し、作用の持続は 3～5 日
である。調節と瞳孔反射は、7～12 日間は完全には回復しない。

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移	(1) 治療上有効な血中濃度 該当資料なし (2) 臨床試験で確認された血中濃度 該当資料なし (3) 中毒域 該当資料なし (4) 食事・併用薬の影響 該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ	(1) 解析方法 該当資料なし (2) 吸収速度定数 該当資料なし (3) 消失速度定数 該当資料なし (4) クリアランス 該当資料なし (5) 分布容積 該当資料なし (6) その他 該当資料なし
3. 母集団（ポピュレーション） 解析	(1) 解析方法 該当資料なし (2) パラメータ変動要因 該当資料なし
4. 吸収	該当資料なし
5. 分布	(1) 血液－脳関門通過性 該当資料なし (2) 血液－胎盤関門通過性 該当資料なし (3) 乳汁への移行性 該当資料なし (4) 髄液への移行性 該当資料なし

	(5) その他の組織への移行性 該当資料なし <参考>²⁾ 眼内移行(家兔)：¹⁴Cで標識した硫酸アトロピン1%液を点眼30分後の眼内移行率は房水 1.41%、角膜 0.7%、強膜・脈絡膜 0.38%、硝子体 0.3%、虹彩・毛様体 0.1%、網膜 0.01% (6) 血漿蛋白結合率 該当資料なし
6. 代謝	(1) 代謝部位及び代謝経路 該当資料なし (2) 代謝に関与する酵素(CYP等)の分子種、寄与率 該当資料なし (3) 初回通過効果の有無及びその割合 該当資料なし (4) 代謝物の活性の有無及び活性比、存在比率 該当資料なし
7. 排泄	該当資料なし <参考>²⁾ ヒトに 2mg 筋注時の血漿中濃度は投与後 20 分以内に最高 11.1 µg/mL、半減期 3.8 時間、24 時間以内に 85%が尿中排泄、尿中排泄の約 50%は未変化体で、加水分解により生成するトロバ酸の排泄は 2%以下。
8. トランスポーターに関する情報	該当資料なし
9. 透析等による除去率	該当資料なし
10. 特定の背景を有する患者	該当資料なし
11. その他	該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

設定されていない

2. 禁忌内容とその理由

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

緑内障及び狭隅角や前房が浅いなどの眼圧上昇の素因のある患者〔急性閉塞隅角緑内障の発作を起こすことがある。〕

（理由）²⁾

抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。

3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

設定されていない

4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

設定されていない

5. 重要な基本的注意とその理由

8. 重要な基本的注意

散瞳又は調節麻痺が起こるので、その症状が回復するまで機械類の操作や自動車等の運転には従事させないように注意すること。また、サングラスを着用する等太陽光や強い光を直接見ないように指導すること。

6. 特定の背景を有する患者に関する注意

（1）合併症・既往歴等のある患者

設定されていない

（2）腎機能障害患者

設定されていない

（3）肝機能障害患者

設定されていない

（4）生殖能を有する者

設定されていない

（5）妊婦

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、診断又は治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

(6) 授乳婦

9.6 授乳婦

診断又は治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

(7) 小児等

9.7 小児等

幼児・小児には 0.25%液を使用することが望ましい。全身の副作用が起こりやすい。

(8) 高齢者

9.8 高齢者

一般に生理機能が低下している。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

設定されていない

(2) 併用注意とその理由

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン作用を有する薬剤 三環系及び四環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 抗ヒスタミン剤等	循環器系、精神神経系等の全身性の副作用があらわれるおそれがある。	相加的に作用（抗コリン作用）を増強させる。

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(1) 重大な副作用と初期症状

設定されていない

(2) その他の副作用

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	アレルギー性結膜炎、眼瞼結膜炎
眼	続発性緑内障、眼圧上昇
循環器	血圧上昇、心悸亢進
精神神経系	幻覚、痙攣、興奮
消化器	悪心・嘔吐、口渇、便秘
その他	顔面潮紅、頭痛、発熱

9. 臨床検査結果に及ぼす影響

設定されていない

10. 過量投与

設定されていない

(参考) ²⁾

アトロピン中毒

徴候、症状：頻脈、心悸亢進、口渇、散瞳、近接視困難、嚥下困難、頭痛、熱感、排尿障害、腸ぜん動の減弱、不安、興奮、せん妄等を起こすことがある。

処置：重度な抗コリン症状には、コリンエステラーゼ阻害薬ネオスチグミンの 0.5～1mg を筋注する。必要に応じて 2、3 時間ごとに繰り返す。

11. 適用上の注意

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

患者に対し以下の点に注意するよう指導すること。

- ・薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。
- ・患眼を開瞼して結膜嚢内に点眼し、1～5分間閉瞼して涙嚢部を圧迫させた後、開瞼すること。
- ・点眼後結膜嚢からあふれ出たものは拭きとること。
- ・他の点眼剤を併用する場合には、少なくとも5分以上間隔をあけてから点眼すること。

12. その他の注意

(1) 臨床使用に基づく情報

設定されていない

(2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

「VI. 薬効薬理に関する項目」を参照すること

(2) 安全性薬理試験

該当資料なし

(3) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 遺伝毒性試験

該当資料なし

(4) がん原性試験

該当資料なし

(5) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(6) 局所刺激性試験

該当資料なし

(7) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：劇薬 有効成分：毒薬
2. 有効期間	有効期間：3 年
3. 包装状態での貯法	室温保存
4. 取扱い上の注意	20. 取扱い上の注意 外箱開封後は、遮光して保存すること。
5. 患者向け資材	患者向医薬品ガイド：無 くすりのしおり：有 その他の患者向け資材：無
6. 同一成分・同効薬	同一成分：なし 同 効 薬：トロピカミド
7. 国際誕生年月日	不明
8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日	製造販売承認年月日：1968 年 7 月 19 日 承認番号：14300AMZ00956000 薬価基準収載年月日：1976 年 9 月 1 日 販 売 開 始 年 月：1976 年 9 月
9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない
10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	再評価結果公表年月：1977 年 7 月

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

13. 各種コード

販売名：日点アトロピン点眼液 1%

厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	個別医薬品コード (YJ コード)	HOT(9 桁) 番号	レセプト電算処理 システム用コード
1311706Q2022	1311706Q2022	101969801	661310277

14. 保険給付上の注意

本剤は基礎的医薬品（指定日：2016 年 4 月 1 日）に該当する。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書, 2021 (廣川書店)
- 2) 日本薬局方医薬品情報 (JPDI) 2021 (じほう)
- 3) ロートニッテン株式会社 社内資料 [安定性試験]
- 4) 藤原元始 他: グッドマン・ギルマン薬理書 第8版 (廣川書店)
1992 : 179-187
- 5) ロートニッテン株式会社 社内資料 [効力試験 (家兎における散瞳効果)]
- 6) 山崎篤巳: 眼科. 1978 ; 20 : 1113-1119
- 7) 井上節: 眼科 MOOK. 1978 ; No. 1 : 41-53

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況 該当しない

2. 海外における臨床支援情報 該当しない

XⅢ. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して
臨床判断を行うに
あたっての参考情報

(1) 粉碎

該当しない

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

該当しない

2. その他の関連資料

該当資料なし

N00449